

学ぶ力向上にかかわる課題

○国語科

- ・「グループ学び」や「みんな学び」など、学び合いを取り入れた授業を進めることで、自分の思いや考えを伝える力、友だちの思いや考えを聴く力は定着しつつある。考えを練り合う姿も見られるようになってきた。今後は、さらに深い学びを目指す必要がある。
- ・自分の考えを自分なりに書く力についてきたが、目的や場に応じて、資料をもとに書く力が弱い。
- ・話の展開にそって質問したり、考えを述べたりする力に弱さが見られる。
- ・ローマ字の読み書きの定着に課題がある。

○算数科

- ・図形に関して示された条件を基に考える力が弱い。
- ・根拠を示しながら、図や式、グラフなどを使って、自分の考えをわかりやすく伝える力が弱い。
- ・計算など基礎的、基本的な力は定着してきているが、個人差が大きい。

○学習習慣

- ・基本的な生活習慣や学習習慣は良い傾向で定着しつつあるが個人差が見られる。
- ・自尊感情は年々高まりが見られる。
- ・規範意識も少しずつ高まってきているが、個人差が見られる。

学ぶ力向上へのアプローチ

『学ぶ意欲・習慣』からのアプローチ

- ・校内研究では、協同的な学びを通して、共に学び、共に高め合う児童を育成する研究を行う。
- ・「話し手の顔を見て考えながら話を聴く姿勢」を習慣化させる。（目と耳と心で聴く）
- ・「めあて」を提示し見通しをもって授業に参加させるとともに、ふり返りをしっかりさせ、評価につなげる。
- ・一人ひとりが活躍でき、満足感、成就感を感じることができる授業を行う。
- ・基本的な学習規律を再確認し、全職員で徹底する。
- ・掲示物を工夫し、学習への興味関心を育てる。

『基礎的・基本的な知識・技能』からのアプローチ

- ・低学年からの積み重ねを着実にする。
- ・毎朝の読書タイムで読書経験を積ませ、短時間学習「エネルギータイム（火・木）」では、新聞記事などを使いながら、書く力をつけていく。
- ・字数制限を設けたり、使用するキーワードを指定したりするなど、条件をつけて文章を書かせる活動を積み重ね、目的や場に応じた文章を書く力を伸ばす。
- ・図や式、グラフなどを使い、根拠を明らかにしながら自分の考えを話したり、書いたりする活動を意識的に取り入れ、わかりやすく説明する力を伸ばす。
- ・学習した漢字は、書く文章の中で必ず使うよう指導し、身につけさせる。
- ・算数科の最初の5分間に、計算プリントなどを活用した復習タイムの取り組みを継続する。
- ・算数科の復習タイムや家庭学習などを使い、図形に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・算数科では、学期末に習熟度別による復習を行う。
- ・全学年で、統一したノート指導を行い、学習内容の理解に繋げると共に書く力を伸ばしていく。
- ・児童の特性に応じた個別の支援を行う。
- ・夏期休業中には、学力補充のための「エネルギータイム」、基礎・基本定着のための「チャレンジタイム」を実施する。

『学んだことを基に課題を解決したり、生活に生かしたりする力』からのアプローチ

- ・既習内容や生活経験を基にして、みんなで学習を練り上げていく学び合いの学習を進める。
- ・「学び合い」の中で質問する場を意識的に設け、話の展開に沿った質問、場に応じた質問をする力を伸ばす。
- ・本時の学びを確かめるために、自分の学びを自分の言葉で話したり書いたりする「振り返り」を行う。
- ・特別活動など教科学習以外においても既習内容が生かせるよう、子ども自ら考え自主的に行動する場を設定する。

『学びを支える確かな生活（基本的な生活習慣・基本的自尊感情・社会規範意識）』からのアプローチ

- ・家庭との連携を強化し、発達段階に応じた家庭学習の定着を図る。
- ・睡眠、食事など子ども達が規則正しい生活が送れるよう保護者への啓発に努める。
- ・学習や生活でのふり返りを通し、子ども自らが自分の成長を感じ取れる取り組みを進める。
- ・様々な方面から積極的に子どもの良い行動を見つけ、認め、褒めることで自己肯定感を高める。
- ・児童同士が互いの良さを感じ、認め合う取り組みを進める。

学ぶ力向上策の検証

- ・全国学力学習状況調査の結果を分析し普段の実践に生かす。
- ・毎時間の授業における児童の自己評価等を授業改善に生かす。
- ・「学校評価」（自己評価、学校関係者評価）を検証し活用する。
- ・「学校評価」や全国学力学習状況調査の結果を生かし、向上策を見直す。（9～10月改訂）

